

基本施策 A 3 交流のための都市機能を高め、交流を促進し、賑わいを創出 します

主管課：観光政策課

個別施策

- A3-1 長崎独自の観光資源を掘り起こし、磨きます
- A3-2 国内外からの観光客、MICEの誘致を図ります
- A3-3 交流のための都市機能を高め、受入態勢の整備とおもてなしの充実を図ります
- A3-4 游学のまち長崎の魅力を高めます

ア 施策の目的

まちが、より多くの来訪者や市民で賑わっている

イ 基本施策の評価

D c 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
観光客数 [暦年]	630.7万人 (26年)	↑	目標値	670.0	675.0	690.0	695.0	710.0	311.3
			実績値	672.4	707.8	705.5	691.8	256.6	258.6
			達成率	100.4%	104.9%	102.2%	99.5%	36.1%	83.1%
観光消費 額[暦年]	1,243億円 (26年)	↑	目標値	1,360.0	1,400.0	1,480.0	1,530.0	1,600.0	657.0
			実績値	1,314.0	1,458.5	1,496.9	1491.9	610.7	615.5
			達成率	96.6%	104.2%	101.1%	97.5%	38.2%	93.7%

※「外国人延べ宿泊客数」、「国内観光客延べ宿泊者数」、「クルーズ客船乗客・乗務員数」および「MICE参加者数」については、令和3年度の目標値を40万人、459万人、55万人および39万2千人に設定していたが、「長崎市観光・MICE戦略」の策定時に、令和元年度の実績値を基に、目標値を新たに設定したことに伴い、全指標の目標値も見直した。

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に対する意見

なし

カ 審議会における施策推進に向けた提言

- (1) バリアフリー整備については、行政だけで進めていくことは難しいと思う。京都市では、民間企業が障害者団体や高齢者団体連携し、その取組みを行政が支援していくという仕組みとなっており、清水寺は国の表彰も受けているため、長崎市でも京都市を参考に進めていただきたい。
- (2) バリアフリーの問題について、厳しい財政状況のなか、長崎のような坂のまちでは、ハード面の整備は限界があると思うので、行政が先頭に立ち、官民連携して高齢者や障害者の方に対するおもてなしをするような風土や人づくりに取り組んでいく必要があると思う。